顕彰碑　雙松岡の碑

〔雙松岡碑と大村藩蔵屋敷跡碑を建立する会　提供〕

（所在地）福島一丁目一　大阪中之島合同庁舎東南角

【碑文】
（正　面）雙松岡
（右側面）紀元二千六百三年
昭和十八年五月一日
（左側面）正三位勲一等楠本長三郎建之

【碑文】（背面）

雙松岡ハ　松林飯山　松本奎堂　岡鹿門ノ塾ナリ　三子ハ皆　昌平黌ノ才俊タリ　文久元年十一月　玉江　田蓑　二橋ノ間　堂島枕流ノ一楼ニ此塾ヲ開キ　尊攘ヲ鼓吹シ　名声大ニ揚ル　遂ニ幕吏ノ圧迫ニ逢ヒ　明年五月　解テ去ル　後奎堂ハ天誅組ノ義挙ニ死シ　飯山ハ大村藩ニ帰リ　五教館ニ教授シ　正議ヲ以テ兇刃ニ斃レ　鹿門独リ寿ナリ　今予大村藩ニ生レ　幸ニ大阪帝国大学総長タリ　先考実ニ飯山ニ学ヒシヲ懐ヒ　乃チ先蹤ヲ彰ニセント欲シ　当時河野鉄兜ノ書セシ門榜ヲ模シテ　碑表ニ刻シ　且ツ之ヲ記ス

昌平黌で学んだ松林飯山・松本奎堂・岡鹿門の三人は、田蓑橋近辺に短い期間であるが、塾を開いていた。それを偲んで昭和一八年（一九四三）に碑が建てられた。一時大阪大学（吹田市）に移されていたが、復元された。

塾跡は、福島区では三つ目の大阪市顕彰史跡に指定された。

背面の碑文の内容

雙松岡は松林飯山、松本奎堂、岡鹿門の塾である。三人は皆 昌平黌の秀才であった。文久元年（一八六一）十一月、玉江橋と田蓑橋の二橋の間にあって堂島川の川面に面して建っていた一軒家でこの塾を開き、尊王攘夷を鼓吹し名声が大いに上がった。しかし最後は幕府の役人から危険視され、圧迫を受けたため翌年五月解散し大坂の地を去った。その後奎堂は天誅組の大和での義挙で自刃し（享年三十三才）、飯山は大村藩に帰り藩校の五教館で教授（校長）として正論（勤王思想・藩政改革）を説いていたが、大村上小路の自宅近くで凶刃に倒れ（享年二十九才）、仙台に帰った鹿門だけが天寿を全うした（享年八十二才）。昭和となった今日、私は旧大村藩の地に生れ、幸いなことに運命の巡り合わせで、雙松岡塾跡地が敷地の一角にあった大阪帝国大学の総長になったことから、我が亡父が実際に飯山に学んだことが脳裏に蘇り、そのことで先人（飯山等）が幕末動乱期の維新回天に身を捧げたことを顕彰したいと切に願い、開塾当時播州林田藩の儒者であった河野鉄兜が塾の標札（額）として書いた「雙松岡」の文字を模写して碑表に刻み、併せてこの文を碑裏に記すこととする。

〔雙松岡碑と大村藩蔵屋敷跡碑を建立する会　提供〕

再建前の桜の季節

〔説明パネル左〕　大阪市顕彰史跡第１９４号

雙松岡塾跡

（福島区福島１丁目）

文久元（1861）年、江戸・昌平黌の俊才、松林飯山・松本奎堂・岡鹿門により開設された漢学塾で、それぞれの名より１字ずつ取って塾名とした。尊王攘夷を鼓舞し、のちの明治維新への原動力の一つとなった。

大阪市教育委員会

碑が建てられた頃
『大阪パノラマ地図』1924 より

〔説明パネル右〕　雙松岡塾跡（福島区福島一丁目）　〔大阪市顕彰史跡第１９４号〕

この塾は幕末の文久元（（1861）年11月に田蓑橋北詰に開かれた漢学塾である。当時、漢学の最高峰といえば、幕府が開設した江戸の昌平黌（しょうへいこう）であったが、そこで俊才と呼ばれた松林飯山（はんざん）・松本奎堂（けいどう）・岡鹿門（ろくもん）の３名によってこの塾がつくられた。そしてそれぞれの名前より１字ずつ取って塾名とした。飯山は筑前生まれで、肥前大村藩の藩校の学頭をつとめていた。また、奎堂は三河刈谷藩出身、鹿門は仙台の生まれで、３名とも大阪の出身ではなかった。

塾の建物は間口２間半ほどの小屋にすぎなかったようだが、尊王攘夷思想を鼓舞して大いに名声を集めていた。そのため大坂町奉行所より倒幕運動家の拠点として危険視され、文久二年５月、わずか半年ほどで閉鎖されるに至った。

地図（略）

『改正増補国宝大阪全図』
文久３（1863）年より

隣接の石碑は、亡父が大村藩藩校で飯山より教えを受けた楠本長三郎博士（大阪帝国大学総長）をはじめ長崎県人会が昭和１８（1943）年に建立したものである。